

Interview

研修を受けて

コンプライアンスの周知徹底を心掛けていますが、その重要性が理解されているのか社員へのインタビューを行いました。

研修を受けて感じた率直な意見を知ることで、今回のレポートのテーマである「見える化」を実現し、今後の研修制度やコンプライアンスについての良い点または改善点を発見していきたいと思います。



企画制作部
生産管理グループ
マネジャー
坂口 淳

業務でお客様の個人情報を取り扱うことが多くあり、常日頃からコンプライアンスについて意識しています。些細なミスが大きなミスに発展する可能性があるとして常に意識し、未然に防ぐように心がけています。コンプライアンスの教育研修は、自分の業務でどのような場面に危険があるのかを認識し、さらなる意識付けする場として必要だと感じています。



営業部
第2グループ
チームリーダー
井上 良介

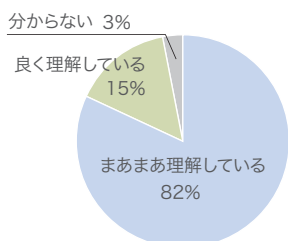
この研修を受けて、今まで自分に関係ないと思っていた法令についても自分の業務に関係していると気付きました。自分が直接携わる部分だけではなく会社全体に視野を置いた時、自分の業務が会社の利益につながるまでにどのような法令を守らなくてはならないかを知ることができました。業務を行う上で法令遵守の重要性は肌で感じていますが、この教育研修を受けて大切さを再認識しました。

Research

コンプライアンスアンケート

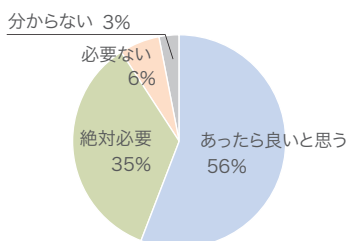
平成22年11月12日に、全社員を対象としたコンプライアンスに関するアンケートを実施し、社員のコンプライアンスに対する意識を知ることができました。また、研修に対する社員の思いや要望も知ることができました。この二つの「見える化」は、今後の活動に対する改善提案に繋げていきます。

当社のコンプライアンスについて理解していますか？



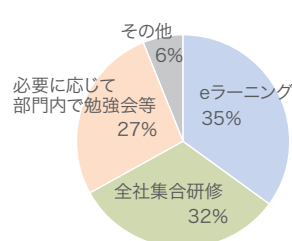
グラフからも分かるように、「理解している」が97%と、意識の高さを感じます。ニッセイエプロは業務遂行上、様々な法令に関わっています。そのため「機密情報管理・著作権・下請法など多くの法令遵守を意識しながら毎日の業務を行っている」という声や、「社会人としてのモラルや一人の人間としての倫理観も前提として意識している」という声もありました。また、「法令を越えた高い倫理観を持つ社員によって、お客様や社会からの信頼を築き、その信頼関係が保たれると考えている」など、信頼性を得るためにもコンプライアンスは重要な要件と考えられます。

コンプライアンスの教育研修は必要だと思いますか？



約9割の社員が教育研修の必要性を感じていると答えました。その理由として、「コンプライアンスは社会人の必須事項であり、企業責任として求められること。研修は社内のコンプライアンスに対する様々な意識レベルを高い次元で統一し、社員一人一人のベクトルを合わせる機会だと思います」という意見がありました。また「時間がない」「資料の常備が良い」との理由から「必要ない」と答えた人もいました。2008年7月に行った研修から2年が経ち、社会のコンプライアンスに求める要望も変化してきています。緊張感を維持し、社会が求めるコンプライアンスのニーズと乖離させないためにも定期的な研修が継続されることが望まれます。

どのような教育研修が有効だと思いますか？



グラフをみると多い順に「eラーニング」「全社集合研修」「必要に応じて勉強会」という結果になりました。「その他」の意見には、「専門別の集合研修」が挙げられます。「社員の意識が希薄になりつつあるように感じる」という意見があり、現在行っているISO14001やプライバシーマークに関連したマニュアル・研修の他に、「業務上でコンプライアンスの重大な過ちに陥りがちな著作権や景観法、ITに関する研修や商品に特化した勉強会などを実施することで、よりコンプライアンスの意識向上につながる」という意見がありました。今後も研修を定期的実施し、PDCAを確実に行うことで、より良い企業市民に近づけると考えます。

WORKING ENVIRONMENT



労働環境



私たちが目指す「より良き企業」は、「より良き社員」によって構築されます。

「より良き社員」の育成は、一朝一夕に成せるものではありません。

私たちは、この最も重要な課題を、将来にわたって継続して取組んでまいります。

Free Session

ニッセイエプロのいいところ

自由

当社が幅広く様々な事業を行っているのは、今日までに自分たちのやれることを広げていった結果だと考えています。自分たちができるものをビジネスチャンスと捉え、事業化していく自由で柔軟な環境があったからだと考えています。

人柄がよい

エプロは、人柄の良さをお客様から評価されることがあります。社員の人柄が当社の信頼性につながり、長くお付き合いさせて頂いている。こうした声をよく聞きます。当社の社長の人柄が社員に伝わり、会社全体にも良い雰囲気が根付いています。

仲がよい

仕事上、プライベート上、どちらも社員同士仲が良いのが特徴です。目標に向かってチームで一致団結して取組んでいます。しかし、ビジネスにおいては仲が良いとお互いに意見を言い合い刺激し合うことが無くなる一面もあります。仲が良いからこそお互いを刺激し合えるチームワークを築き、より良い商品を提供できるように努めることが課題です。

福利厚生について

- 法定福利 (健康保険、厚生年金、厚生年金基金、雇用保険、労災保険)
- 研修支援
資格取得支援制度があり、受験料の減免や、合格時の報奨金授与を行っています。
また研修会社との契約により、講座選択方式による外部研修が受講できる体制を整えています。
- 永年勤続表彰制度
10、20、30年勤続の方に表彰を行っています。
- 健康保険組合による福利厚生
東京文具販売健康保険組合に加入しています。
- エプロ賞
社内基準を設け、業績向上等に功績のあった者、研究開発、改良工夫等に顕著な功績があった者を対象としています。



営業部
第3グループ
担当マネージャー
鈴木 浩二

企画制作部
情報技術グループ
グループマネージャー
瓜本 夏樹

企画制作部
制作グループ
塚越 恵美子

総務部
人事課リーダー
石原 直人

武蔵野大学 3年
久保川 みのり

女性の働きやすさ

女性の労働保護規定について

当社では、女性の労働保護規定として、関係法令に基づき、下記の休暇・休業制度を規定しています。

- ①産前産後の休業規定 (労働基準法第65条に基づく規定)
- ②母性健康管理のための休暇等の規定 (男女雇用機会均等法第12条、第13条、同施行規則第2条の3に基づく規定)
- ③育児休業・介護休業 (育児・介護休業法に基づく規定)
- ④子の看護休暇 (育児・介護休業法に基づく規定)

病気になった時は
6割の傷病手当を受け、時短措置を認められました。

休暇制度利用中の方のサポートをチーム内でを行い、復帰しやすい環境づくりをしています。

性別で差別されることなく女性も男性と対等に仕事を任せられています。



企画制作部
情報技術グループ
山岸 千鶴

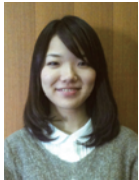
営業部
第3グループ
平沢 敬子

企画制作部
制作グループ
プランナー
山田 裕子

Editor's note

編集後記

本COPの企画制作に協働いただいた3名の学生の皆さんに「編集後記」を書いてもらいました。



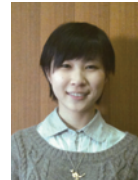
武蔵野大学
環境学部環境学科
環境学専攻 3年
(本プロジェクトリーダー)
宇内 友里恵

ニッセイエプロ様には、学生のうちに実際の業務に近い作業を体験させていただき貴重な経験となり感謝しています。このCOPレポートを作成する中で、社員の方たち同士の仲が良く、団結力があることが分かりました。このチームワークを強みに、レポートで「見える化」された改善点に取組み、PDCAサイクルを築いていけたら効果的だと思います。



武蔵野大学
環境学部環境学科
環境学専攻 3年
宮田 友理

アンケートやインタビューにより、社会人の生の声を聞く貴重な体験ができました。インタビューで出た意見を今後の研修や業務に反映されれば、さらなる飛躍が期待できると思います。この報告書を社員自身が会社を知る1つのツールとして、また社会に「ニッセイエプロ」をアピールするきっかけとして利用し、次のステップへ繋げてほしいです。



武蔵野大学
環境学部環境学科
環境学専攻 3年
(ECO REPORT WAY 21
前リーダー)
久保川 みのり

外部の人間である私たちに会社の大切な情報を「見える化」し、レポートを作成するのは大変な決断であったと思います。このような機会をいただけたことを、感謝申し上げます。今回のレポートを通して、会社を見直すきっかけになったのではないのでしょうか。よりよい企業へと一丸となって進んでいく姿を、次のレポートでは示していただけたいと思います。

今回のCOP制作プロジェクトについて

当佐々木ゼミの主要テーマは、環境経営施策です。前期ゼミは、学生が各自環境経営施策の選定、調査・検討、プレゼンを行い、知識の共有化を目標に、また後期ゼミは、共有化した環境経営施策の知識を基に活動テーマの設定、計画立案、実行、活動の評価・見直し、いわゆるPDCAサイクルを回すことを目標にしました。ちょうど後期のゼミが始まる前にニッセイエプロ株式会社から今回のCOP制作プロジェクトのお話を頂きました。「ECO REPORT WAY 21」活動の中心メンバーで、これまでの分析・評価の活動

からステップ・アップして自ら報告書を作成したいという強い思いを持った3名が手を挙げました。

9月28日のキックオフから活動を開始し、ニッセイエプロ株式会社の方々と連携して作業を行い、COPの完成に至りました。今回のCOP制作プロジェクトは、学生が主体的にアイデアを出し、企業の方々と連携して、責任を持ってプロジェクトをやり遂げるという貴重な体験により学生の自信になり、成長を促しました。また企業と連携した新たなゼミ活動の形を示すことができたと思います。このような機会を与えていただいたニッセイエプロ株式会社に感謝いたします。

武蔵野大学 環境学部 教授 佐々木 重邦

Communication on Progress発行にあたって —キャリア教育プロジェクト—

当社のような中小企業が社会に貢献する上で、GRIガイドラインへの準拠、ISO26000への対応など、大手企業のように人的リソースを割って実施することは極めて困難です。

このため私たちは、社会貢献活動を行いながら活動内容の質を高め、より良い企業市民を目指す手法として、COPを通じてPDCAサイクルを回しながら自社の成長を目指すことができるグローバル・コンパクトへの参画を決定いたしました。

COPの発行にあたっては、社会貢献活動のひとつの取組として、環境教育の一環として大学との協働による大学生によるサステナブルレポートの作成というプロジェクトを立ち上げました。

これは当社の社会貢献活動としてのキャリア教育の一環としてばかりではなく、理想に溢れ、今後の社会をリードする、ある意味新鮮で厳しい大学生の方々の目から当社を評価していただくことにより、改めて私たち自身が襟を正す機会となると考えたからです。

本COPは、編集企画から編集方針の決定、編集内容に至るまで、大学生の方々と協働で制作いたしました。

本プロジェクトを通して、これまで行ってきた企業活動をGCの10の原則に基づいて棚卸作業をすることができました。

今後はCOPの社内浸透を図り、大学生の方々からご指摘いただいた意見に真摯に向き合い、ご参加いただいた大学生の方々に恥じない改善を行ってまいりたいと考えます。

最後に、本COPの制作にあたり、多大なご協力を賜りました武蔵野大学環境学部佐々木重邦教授、環境学部3年の宇内友里恵さん、宮田友理さん、久保川みのりさんに感謝申し上げます。

ニッセイエプロ株式会社 グローバル・コンパクト推進委員会

表紙について

青色は、私たちが目指す企業姿勢である「誠実さ」を表現し、白い2つの曲線は、会社と社員、会社とステークホルダーの方々が、誠実にしなやかに関係しながら、お互い継続的に発展していくことをイメージしています。

Activity Report

グローバル・コンパクト活動報告



人権分野に関する活動報告

評価



【本年度活動内容】

休暇制度がきちんと整えられ、社員の人権を大切にしていることが分かる。また、カラーユニバーサルデザインを推奨するなど、多くの人にとっての平等をかなえようとしていることが分かる。

【来年度目標】

カラーユニバーサルデザインについては、営業用ツールを整備し、年間を通じてカラーユニバーサルデザインの普及活動を実践する。



労働基準分野に関する活動報告

評価



【本年度活動内容】

休暇制度が整えられていることが分かるほか、取得した社員の声を載せていることが好印象。しかし、社員が取得しやすい状況であるのかを示すような具体的な情報提供があるとなお良い。

【来年度目標】

法規制遵守の規定をはじめ、それらの「社内情報共有を最適化する」ことに焦点を当て部門、個人レベルまで情報格差を解消し、制度を有効に活用できる整備環境を図る。



環境分野に関する活動報告

評価



【本年度活動内容】

ISO14001の取得により環境保全に対して興味を持ち、取り組んでいることが分かる。具体的にどのような活動を行っているのかなどの情報があるとなお良い。

【来年度目標】

ISO14001で設定している、廃棄物再利用率の向上をはじめ、事業内容と連動した環境目標（ICTソリューションサービス、CSRコミュニケーション、その他環境配慮型サービスの提供）を達成させる。



腐敗防止分野に関する活動報告

評価



【本年度活動内容】

コンプライアンスの徹底のために体制が整えられていることが分かる。周知徹底を図るために研修を行っていること、そしてアンケートによってそれが効果を出していることが分かり、透明性を感じる。

【来年度目標】

コンプライアンスアンケートの結果を精査し、教育・研修を中心に具現させる。

※この活動報告は、本レポート制作に関わった武蔵野大学 環境学部 佐々木重邦ゼミCOP制作プロジェクトに、当社活動を「見える化」する中で得た内容を基に、客観的に評価していただきました。